

貝塚市遺跡群発掘調査概要 37

2015. 3. 31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から東南に長くのびる市域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきました。急速な開発は、自然環境に多大な影響を与え、さらに地下に眠る埋蔵文化財も消滅の危機に瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない貴重な情報を提供してくれます。この貴重な情報を記録保存することにより将来の文化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行なわれています。埋蔵文化財においても情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成 26 年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史・文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

貝塚市教育委員会

教育長 西 敏 明

例　　言

1. 本書は貝塚市教育委員会が平成 26 年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 発掘調査は平成 26 年 4 月 1 日より実施し、平成 27 年 3 月 31 日に終了した。調査は三浦基が行なった。
3. 本書の執筆は三浦基、編集は柴谷幸佑が行なった。
4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

凡　　例

1. 図中の方位は磁北を示す。
2. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990 年度版を用いた。
3. 貝塚市遺跡分布図については、山間部の一部は掲載していない。

目 次

はじめに

例 言、凡 例

目 次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第1章 平成26年発掘調査の概要	1
第2章 調査の成果	5

1. 堀遺跡	2014-03区	5
2. 堤三宅遺跡	2014-01区	6
3. 半田北遺跡	2014-04区	8
4. 沢城跡	2014-06区	8
5. 明楽寺跡	2014-07区	9
6. 新井・鳥羽北遺跡	2014-08区	10
7. 千石堀城跡	2013-09区	12
千石堀城跡	2014-09区	12
8. 遺跡範囲外	2014-02区	19
遺跡範囲外	2014-05区	19

挿図目次

- 図 1 貝塚市遺跡分布図
図 2 調査地位置図
図 3 調査地位置図
図 4 2014 - 03 区
図 5 2014 - 01 区
図 6 2014 - 01 区
図 7 2014 - 04 区
図 8 2014 - 06 区
図 9 2014 - 07 区
図 10 2014 - 08 区
図 11 2013-09 区、2014 - 09 区
図 12 2013 - 09 区
図 13 2013 - 09 区
図 14 2014 - 09 区
図 15 2014 - 09 区
図 16 2014 - 09 区
図 17 2014 - 02 区
図 18 2014 - 05 区
- 図版 8
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 1 区
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 2 区
- 図版 9
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 3 区
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 4 区
- 図版 10
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 5 区
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 6 区
- 図版 11
新井・鳥羽北遺跡 (2014-08 区) 第 7 区
- 図版 12
千石堀城跡 (2013-09 区) 第 5 区
- 図版 13
千石堀城跡 (2013-09 区) 第 6 区
- 図版 14
千石堀城跡 (2013-09 区) 第 7 区
- 図版 15
千石堀城跡 (2014-09 区) 第 1 区
- 図版 16
千石堀城跡 (2014-09 区) 第 2 区
- 図版 17
千石堀城跡 (2014-09 区) 第 3 区
- 図版 18
千石堀城跡 (2014-09 区) 第 4 区
- 図版 19
遺跡範囲外 (2014-02 区)
遺跡範囲外 (2014-05 区) 第 1 区
遺跡範囲外 (2014-05 区) 第 2 区

図版目次

- 図版 1
堀遺跡 (2014-03 区) 第 1 区
堀遺跡 (2014-03 区) 第 2 区
- 図版 2
堤三宅遺跡 (2014-01 区) 第 1 区
堤三宅遺跡 (2014-01 区) 第 2 区
- 図版 3
堤三宅遺跡 (2014-01 区) 第 3 区
堤三宅遺跡 (2014-01 区) 第 4 区
- 図版 4
半田北遺跡 (2014-04 区) 第 1 区
半田北遺跡 (2014-04 区) 第 2 区
- 図版 5
沢城跡 (2014-06 区)
- 図版 6
明楽寺跡 (2014-07 区) 第 1 区
明楽寺跡 (2014-07 区) 第 2 区
- 図版 7
明楽寺跡 (2014-07 区) 第 3 区
明楽寺跡 (2014-07 区) 第 4 区

表目次

- 表 1. 平成 26 年国庫補助事業一覧
(平成 26 年 1 月～12 月)

第1章 平成26年発掘調査の概要

平成26年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は197件、遺跡外試掘調査依頼は7件である。

届出・通知にかかる対応について、確認調査は16件、立会調査は61件、復工事は117件、府にて対応は3件、99条にかかる発掘調査は10件である。

届出・通知及び依頼の総件数は前年と比較して減少した。長引く不況等の社会情勢を反映しているものと考えられる。

分譲住宅の届出件数は20件、個人住宅の件数は57件であり、前年と比較して減少している。その要因としては、宅地造成の件数の減少、開発規模も縮小しており、分譲住宅の届出件数に反映されているものと考えられる。個人住宅についての発掘調査はなかった。

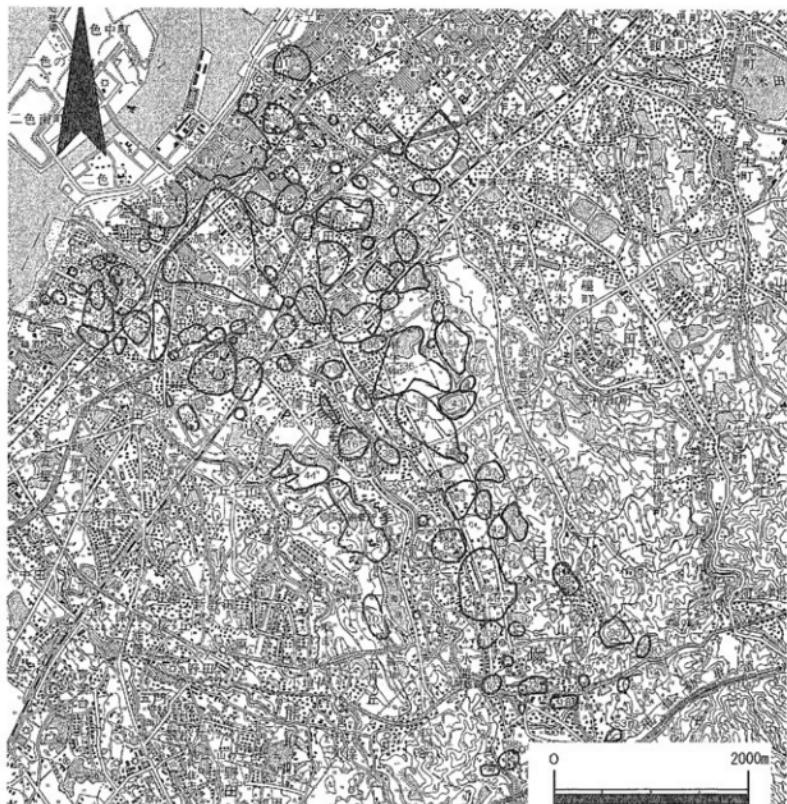
住宅以外の開発は、宅地造成9件、共同住宅3件、店舗1件である。宅地造成、共同住宅は前年と比較して増加傾向である。

また、個人住宅や共同住宅において地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行なう事例が増加しており、埋蔵文化財の破壊が懸念される。

遺跡範囲外においての開発は7件であり、前年に比べ減少傾向である。その目的は宅地造成3件、店舗3件、その他1件である。

	遺跡名	調査番号	調査	開発地
(平成25年度)				
1千石堀城跡	2013-09	確認	名越地内	
(平成26年度)				
2堤三宅遺跡	2014-01	確認	堤393他15筆	
3遺跡範囲外	2014-02	試掘	小瀬305-1、305-4	
4堀遺跡	2014-03	確認	堀2-376-1、640、641、642-1、644、646-4	
5半田北遺跡	2014-04	確認	半田335、336-1の各一部	
6遺跡範囲外	2014-05	試掘	沢583-1他6筆	
7沢城跡	2014-06	確認	浦田63-2、65-1、沢580-2	
8明楽寺跡	2014-07	確認	沢541-8、551-1、551-2、552-1、552-4、546-1の一部、530の一部、532-2の一部	
9新井・鳥羽北遺跡	2014-08	確認	小瀬188他	
10千石堀城跡	2014-09	確認	名越地内	

表1. 平成26年国庫補助事業一覧(平成26年1月～12月)



1. 沢新出遺跡
2. 沢海岸遺跡
3. 沢遺跡
4. 長樂寺跡
5. 地藏堂丸山古墳
6. 地藏堂廃寺
7. 下新出遺跡
8. 泰院寺跡
9. 麻生中新池遺跡
10. 沢城跡
11. 沢海岸遺跡
12. 沢河池遺跡
13. 水間寺遺跡
14. 木積觀音寺跡
15. 堀道跡
16. 桜木道跡
17. 水間寺遺跡
18. 木積觀音寺跡
19. 堀道跡
20. 桜木道跡
21. 桜木道跡
22. 貝塚寺内町遺跡
23. 加治・神前・畠中遺跡
24. 明來寺跡
25. 沢共同墓地遺跡
26. 沢西出遺跡
27. 沢海岸北遺跡
28. 沢城跡
29. 新井・鳥羽遺跡
30. 新井ノ池遺跡
31. 半田遺跡
32. 麻生中遺跡
33. 積善寺城跡
34. 清見遺跡
35. 集原池遺跡
36. 高井天神廢寺・高井城跡
37. 森城跡
38. 森B遺跡
39. 森A遺跡
40. 千石堀城跡
41. 千石堀城跡
42. 森C遺跡
43. 二ツ池遺跡
44. 千石堀城跡
45. 水間墓地
46. 三ヶ山城跡
47. 片山墓地
48. 鹿田遺跡・麻田廢寺
49. 堀城遺跡
50. 三ツ松遺跡
51. 横谷城跡
52. 半田遺跡
53. 小瀬五所山遺跡
54. 石才遺跡
55. 王子遺跡
56. 土生遺跡
57. 海岸寺山遺跡
58. 脇浜川遺跡
59. 沢海岸遺跡
60. 王子遺跡
61. 土生遺跡
62. 海岸寺山遺跡
63. 脇浜遺跡
64. 海岸寺山遺跡
65. 今池遺跡
66. 三ヶ山遺跡
67. 三ヶ山西遺跡
68. 七石才南遺跡
69. 名越遺跡
70. 地藏堂遺跡
71. 地藏堂遺跡
72. 地藏堂遺跡
73. 名越西遺跡
74. 高井遺跡
75. 新井・鳥羽北遺跡
76. 沢西遺跡
77. 王子西遺跡
78. 津田遺跡
79. 三ヶ山オニ谷遺跡
80. 森下代遺跡
81. 三ツ松北垣外遺跡
82. 萩原遺跡
83. 森下代遺跡
84. 萩原遺跡
85. 萩原池西遺跡
86. 麻生中出口遺跡
87. 小瀬遺跡
88. 堀三宅遺跡
89. 沢新開遺跡
90. 沢タナジリ遺跡
91. 桜新開遺跡
92. 桜池遺跡
93. 麻生中下代遺跡
94. 堀秋毛遺跡
95. 半田北遺跡
96. 沢老ノ塚遺跡
97. 京遺跡
98. 馬場遺跡
99. 鳥の池西遺跡
100. 白地谷遺跡
101. 津田北遺跡
102. 久保遺跡
103. 水間二ノ戸遺跡
104. 産田ハマデ遺跡
105. 海岸遺跡
106. 脇浜川遺跡
107. 馬場惣代遺跡
108. 橋本野岸ノ下遺跡
109. 麻生中栗葉堂遺跡
110. 谷池遺跡
111. 小瀬大遺跡
112. 石才通井口遺跡
113. 海塚宝伝遺跡
114. 小瀬与九郎遺跡
115. 王子大イケダイ遺跡
116. 王子ヨウサ遺跡
117. 半田ヨコマクラ遺跡
118. 堀西浦遺跡
119. 木積下代遺跡
120. 橋本原宮遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)



図2 調査地位置図



図3 調査地位置図

第2章 調査の成果

1. 堀遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上に位置し、海抜5~10mに位置する。周知の遺跡として古墳時代から室町時代にかけての集落跡と推定される。これまでの調査では、古墳時代中期に位置づけられる堅穴住居跡を計7棟検出している。そのほか飛鳥時代の柱穴、溝、平安時代の掘立柱建物、土坑などを検出している。

2014-03区の調査

本確認調査は、堀2丁目376-1、640、641、642-1、644、646-4において実施した。調査は、切り土部分（第1区）、建物建設部分（第2区）の2ヵ所に調査区（合計12.4m²）を設定して実施した。以下、概要を示す。

第1区

本調査区は、開発地切り土予定部分に設定した。地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.1m）、にぶい黄褐色土（2、層厚0.2m）、灰黃褐色土（3、層厚0.4m）、黃褐色砂（4、層厚0.3m）、黃褐色砂礫（5、層厚0.35m）、褐色砂礫（6）である。第3層以下は河川堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第2区

本調査区は、建物建設部分に設定した。地層堆積状況は、上層より耕作土（7、層厚0.35m）、灰黃褐色土（8、層厚0.4m）、灰色粘土（9、層厚0.2m）、灰黄色砂（10）である。第10層以下は河川堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

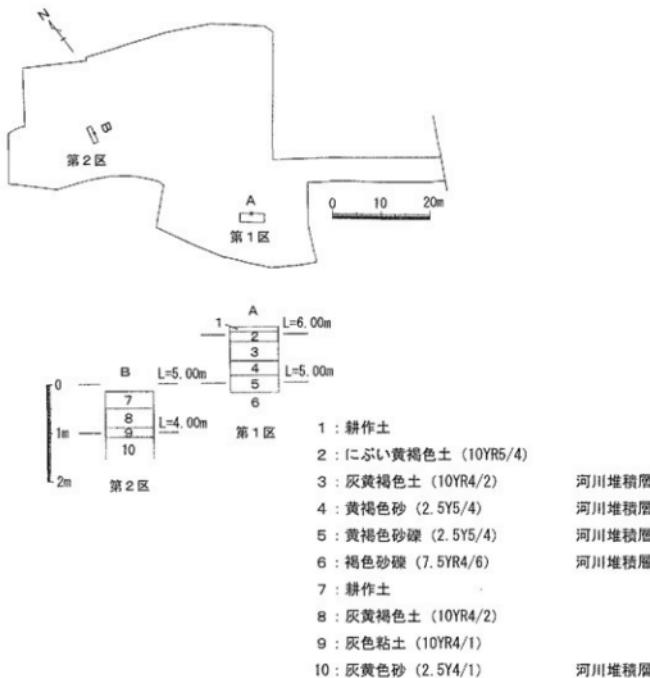


図4 2014-03区

2. 堤三宅遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約18mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。本市による平成16年度（2004年）の確認調査においては、中世の遺物包含層を確認しており、土師器、須恵器が出土している。本遺跡の東側に位置する堤西浦遺跡より古代と中世の遺物包含層を確認している。

2014-01区の調査

本確認調査は、堤393外12筆において実施した。調査は、開発道路部分に4ヵ所（第1区～第4区、合計35m²）の調査区を設定して実施した。

第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.1m）、旧耕作土（6、層厚0.05m）、黄褐色土（3、層厚0.15m）で、その下は、黄褐色粘土（7）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており、地山上面で遺構検出を行ったところ、柱穴3基を確認した。柱穴は、灰褐色土の埋土で、長軸0.2～0.3m、柱間約1.5mで南東～北西方向にならんでいる。地層が削り取られており深さ0.03～0.06mが残るのみである。遺物は、第3層から瓦器、土師器（中世）が出土した。

第2区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.1m）、にぶい黄色細砂混じり土（2、層厚0.1m）、黄褐色土（3、層厚0.15m）、黄褐色土（4、層厚0.08m）で、その下は、黄褐色粘土（5）の地山である。地山上面で遺構は確認できなかった。遺物は、第4層から土師器、須恵器が出土した。

第3区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.15～0.2m）、にぶい黄褐色土（8、層厚0.15m）、にぶい黄褐色土、黄褐色粘土混じり土（9、層厚0.2～0.3m）、その下は、黄褐色粘土（7）の地山である。地山面は削り取られており遺構は確認できなかった。地層堆積状況から第9層は盛土と考えられるが遺物は出土しておらず、盛土の時期については不明である。

第4区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.2m）、にぶい黄褐色粗砂（10、層厚0.2m）、にぶい黄褐色砂礫（13、層厚0.2m）でその下は、黄褐色粘土（7）の地山である。地層堆積状況から判断して、河岸段丘下に砂礫層（13）がひろがり、11層、12層は南東～北西方向の構と考えられる。12層から土師器片が出土しているもの的人為的に掘削されたものとは考えられない。



図5 2014-01区

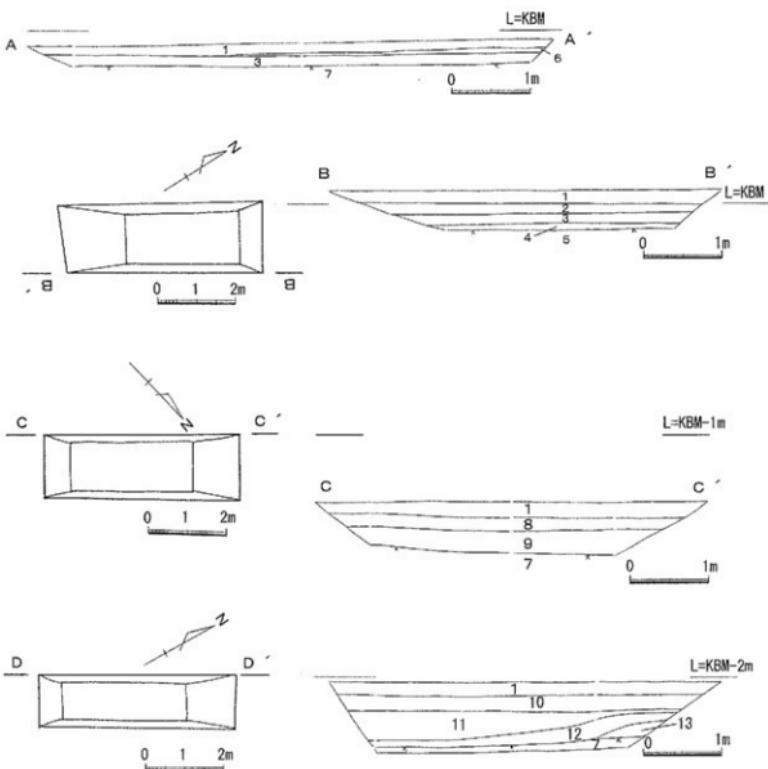
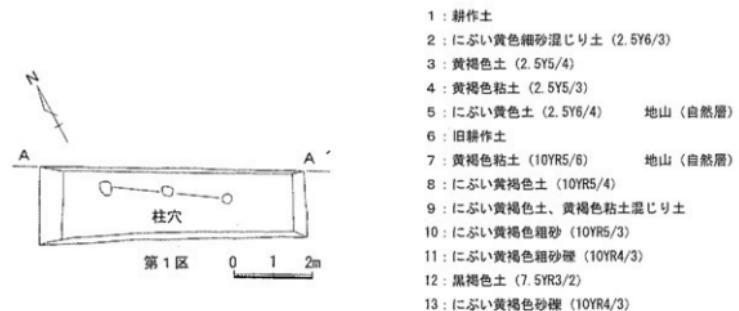


図6 2014-01区

3. 半田北遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上、標高は約24mに位置する。これまでの調査では、奈良時代の遺物包含層や堀立柱建物の柱穴を検出している。本遺跡の周囲には半田遺跡、秦庵寺が所在する。南西側に位置する秦庵寺は、白鳳期の寺院が建立されていたと推定され、隣接する半田遺跡等より古代の建物等の遺構や遺物を確認している。

2014-04 区の調査

本確認調査は、半田335、336-1の各一部において実施した。調査は、開発道路部分（第1区、第2区）の2カ所に調査区（合計7.7m²）を設定して実施した。以下、概要を示す。

第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.2m）、にぶい黄色土（2、層厚0.15m）で、その下は黄褐色土（3）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第2区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.2m）、にぶい黄色土（2、層厚0.15m）で、その下はにぶい黄褐色土（4）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

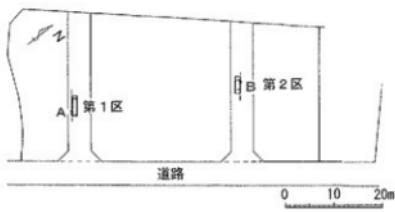
4. 沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高8～11mに位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州板來勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正13(1585)年の紀州攻めの際に、宝蔵院・田中加助ら紀州の一尚宗と雜賀衆約6000人が籠城したとされる。

沢城跡では中世の堀立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。平成13(2001)年度の調査では、溝を検出し、溝内より大量の瓦が出土している。沢城に関連する溝と考えられる。

2014-06 区の調査

本確認調査は、浦田63-2、65-1、沢580-2、水路敷において実施した。調査は、開発道路部分に調査区（6.9m²）を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より整地土（1、層厚0.05m）、耕作土（2、層厚0.2m）、黄褐色土（3、層厚0.23m）、にぶい黄褐色土（4、層厚0.15m）、灰黄褐色土（5、層厚0.07m）でその下は、明黄褐色土（6）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

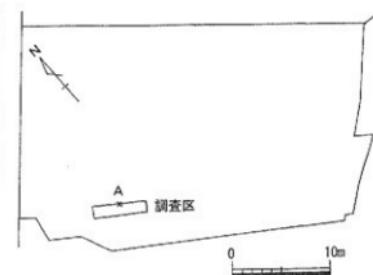


現状 GL		
1	2	3
耕作土	にぶい黄色土 (2.5Y6/3)	黄褐色土 (10YR5/6)
2	3	4
3	4	5
4	5	6

1 : 耕作土
2 : にぶい黄色土 (2.5Y6/3)
3 : 黄褐色土 (10YR5/6)
4 : にぶい黄褐色土 (2.5Y5/4)

5 : 地山 (自然層)
6 : 地山 (自然層)

図7 2014-04区



1	整地土
2	耕作土
3	黄褐色土 (2.5Y5/3)
4	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
5	灰黄褐色土 (10YR4/2)
6	明黄褐色土 (10YR6/6)
	地山土

図8 2014-06区

5. 明楽寺跡

本遺跡は、見出川右岸の中位段丘上、標高7～10mに位置する。平安時代の寺院「明楽寺」の寺域が推定されている。従前の調査では瓦の出土は少量あるものの寺院に関する遺構は確認されていない。

2014-07 区の調査

本確認調査は、沢541-8、551-1、552-1、552-4、546-1の一部、550の一部、552-2の一部において実施した。調査は、開発道路部分に3ヵ所（第1区、第2区、第4区）、防火水槽設置部分に1ヵ所（第3区）の調査区（合計39.8m²）を設定して実施した。

第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.25m）、黄褐色土（2、層厚0.3m）でその下は、黄褐色土（3）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は第2層から瓦器、土器（中世）が出土した。

第2区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.15m）、黄褐色土（2、層厚0.1m）、にぶい黄褐色土（4、層厚0.2m）、にぶい黄褐色土、灰黃褐色土混じり土（5、層厚0.13m）でその下は、黄褐色土（3）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は第4層、第5層から瓦器（中世）が出土した。

第3区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.2m）、にぶい黄褐色土（6、層厚0.2m）、にぶい黄褐色土（7、層厚0.2m）、黄褐色土（8、層厚0.1m）でその下は、黄褐色土（3）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は第7層から瓦器、土器（中世）が出土した。

第4区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚0.2m）、にぶい黄褐色土（6、層厚0.2m）、にぶい黄褐色土（7、層厚0.16m）、黒褐色土（9、層厚0.1m）でその下は、黄褐色土（3）の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は第7層から瓦器、土器（中世）が出土した。



6. 新井・鳥羽北遺跡

本遺跡は、津田川左岸の段丘上に位置し、東西 350 m、南北 320 m の範囲に広がる中世から近世にかけての集落跡である。遺跡の範囲は大部分がユニチカ貢堀工場跡の敷地にかかっており標高 17 m ~ 20 m である。これまでの調査で中世の掘立柱建物跡、溝、廻溝等を検出しており、中世の集落跡、耕作跡が存在したものと推測される。

2014-08 区の調査

本確認調査は、小瀬188他において実施した。調査は、確認調査計画に基づき 7 カ所(第1区～第7区、合計 130.7 m²)を設定して実施した。以下、各調査区について概要を示す。

第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土(1、層厚 0.7 m)、暗灰黄色土(2、層厚 0.25 m、耕作土)、暗灰黄色土(3、層厚 0.2 m、旧耕作土)、黄褐色土(4、層厚 0.12 m)でその下は、明黄褐色粘土(5)の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第2区

本調査区の地層堆積状況は、盛土・擾乱層(1、層厚 1.5 m 以上)で明黄褐色粘土(5)の地山を確認した。出土遺物なしで、遺構は確認できなかった。

第3区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土(1、層厚 0.7 m)、耕作土(6、層厚 0.1 m)、黄褐色土(7、層厚 0.35 m)、灰黄褐色土(8、層厚 0.1 m)でその下は、明黄褐色粘土(5)の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており、遺構は確認できなかった。遺物は、第 8 層から瓦器、土師器(中世)が出土した。

第4区

本調査区の地層堆積状況は、盛土・擾乱層(1、層厚 1.5 m 以上)である。出土遺物なしで、遺構は確認できなかった。

第5区

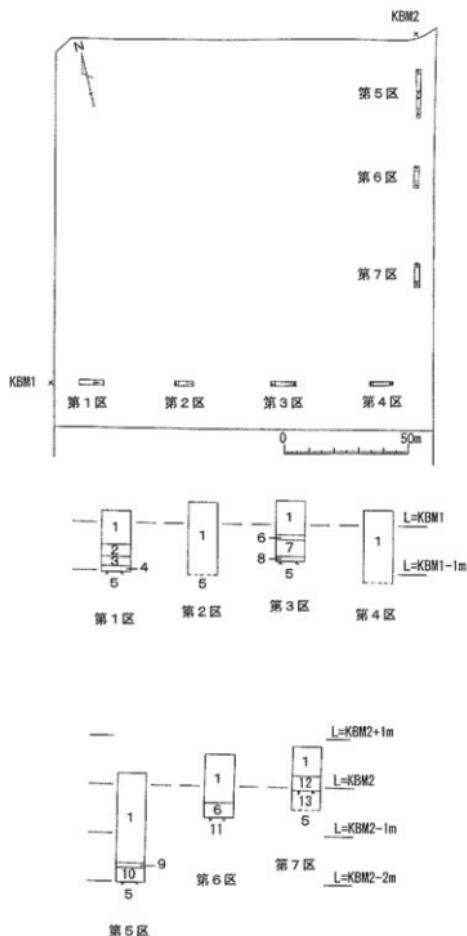
本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土(1、層厚 1.85 m)、耕作土(9、層厚 0.1 m)、にぶい黄橙色シルト～細砂(10、層厚 0.2 m)でその下は、明黄褐色粘土(5)の地山である。調査区中央部で擾乱されていること、地層が削り取られている状況により、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第6区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土(1、層厚 1 m)、耕作土(6、層厚 0.3 m)でその下は、灰オリーブ穢砂層(11)の地山である。調査地周辺はもと畠地状態で水田が広がる地域だったと考えられ、本調査区についても、フケ田(深け田)と呼ばれる泥層(耕作土)が深い水田の堆積が確認できた。遺物は出土していない。

第7区

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土(1、層厚 0.6 m)、灰黄褐色砂混じり土(12、層厚 0.3 m)でその下は、にぶい黄褐色土(13)・明黄褐色粘土(5)の地山である。地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。



- 1 : 盛土・搅乱層
 2 : 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)
 3 : 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)
 4 : 黄褐色土 (2.5Y5/3)
 5 : 明黄褐色粘土 (2.5Y6/6)
 6 : 耕作土
 7 : 黄褐色土 (2.5Y5/4)

- 8 : 灰黄褐色土 (10YR5/2)
 9 : 耕作土
 10 : にぶい黄橙色シルト～細砂 (10YR6/4)
 11 : 灰オリーブ礫砂層 (7.5Y4/2) 地山 (自然層)
 12 : 灰黄褐色砂混じり土 (10YR5/2)
 13 : にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 地山 (自然層)

図 10 2014-08 区

7. 千石堀城跡

貝塚市域には、織豊期の城が数多く築かれた。根来衆の出城として造られた千石堀城跡は、「根来出城配置図」(江戸時代製作)に二重の堀がめぐらされ「今城」と標記されている。また、この一帯は「三ノ丞山」と呼ばれ、三ノ丞大師がまつられ、江戸時代は橋本の清水大師とともに大師信仰の場とされていた。

これまで、貝塚市内では城跡の発掘調査を実施したのは積善寺城跡のみで、堀の一部が確認されている。千石堀城跡については、周辺部で試験調査がされたことがあるが、城にかかる造構は確認されていない。はやくからその存在を知られた千石堀城は、城郭研究者による網張り図が作成され、現状で二重の堀が確認できる状況である。

2013-09 区の調査

本確認調査は、名越地内において実施した。調査は、城郭研究者の中西義昌氏による網張り図を作成していただき、それをもとに近代に改編されたと考えられる地点に調査区を設定して実施した。

平成25年12月24日～27日にかけて第1区～第4区を設定して実施した。第1区、第2区は現状平坦面に加工されたことにより外側の堀の一部が破壊されている可能性が大きい地点に設定した調査区である。今回は、第1区周辺で追加調査(第5区)、虎口付近の状況確認(第6区)、堀の一部の確認(第7区)の3ヵ所(合計27m²)の調査を実施した。

第5区

第1区の現状平坦面から斜面部分にかけて、調査区を設定して実施した。二重に存在することが確認できた堀の外側には堀ではなく、現状で東側に急斜面があるが、現状平坦面の造成時に緩やかな斜面に盛土(第2層)をしていくことが明らかとなった。遺物は瓦が出土している。

第6区

北側から土橋を進み虎口付近に至る地点に調査区を設定して実施した。網張り図で描かれた虎口は、堀が食違う、食違い虎口となっている。通路が後世に拡幅された状況を確認するために調査を行った調査の結果、通路の幅が約3mあり、拡幅された状況が明らかとなった。遺物は出土していない。

第7区

虎口に至る土橋の西側には、池状の溝みが存在しており、後世の掘削によるため池の可能性が考えられた。溝み内に調査区を設定し、確認した。結果、幅6.4m、深さ2.3mの堀を検出し、北側及び西側に掘削土を盛り上げて土壁としたと考えられる。遺物は、第2層より瓦片が出土している。

2014-09 区の調査

本確認調査は、名越地内において実施した。調査は平成26年12月22日～26日にかけて第1区～第4区(合計43.4m²)を設定して実施した。第1区、第3区、第4区は西側の堀の状況を確認するために設定した調査区である。第2区は頂上部にある平坦面は方形に整形されており、造成の状況を確認するために設定した。

第1区

本調査区は西側の堀南西側に設定した。現状でも頂上部分との高低差は1.6mで西側に堀が続く状況は確認できている。堀の幅約5.5m、深さ1.8mである。地層堆積状況は、堀以外の部分は、腐植土層(1、層厚0.1m)の下は橙色土(7)地山である。堀内の地層は大きく5層に分けることができるが、地層の状況から判断して、自然埋没したものとは考えられない。短い期間に一度に埋め戻したと考えられる。

第2区

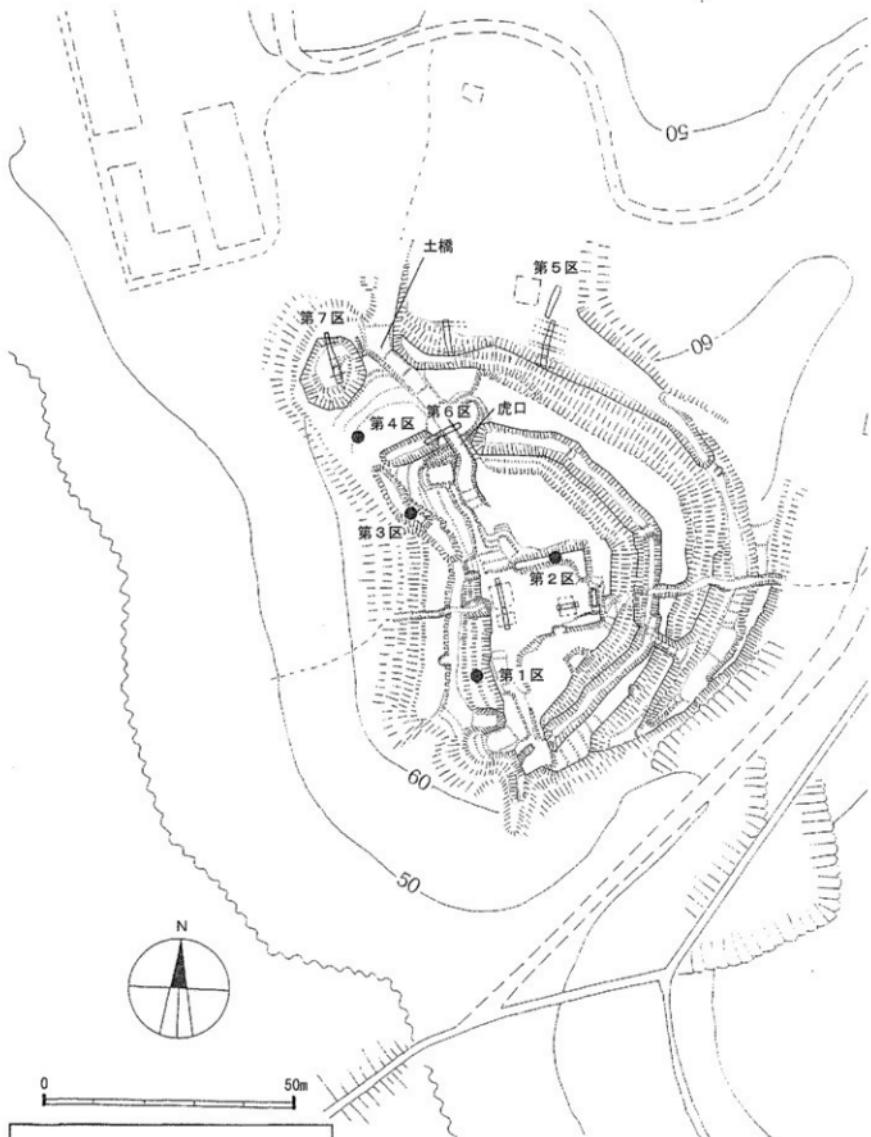
本調査区は頂上部、方形に整形された段差部分に設定した。現状の段差は0.9mである。地層堆積状況は、腐植土層(1、層厚0.1～0.25m)、段差部分には盛土(10、層厚1m)、にぶい黄褐色土(11、層厚0.2m)を確認している。盛土は南側頂上部分を削り橙色土(7)の地山土を盛土として方形の段差を造成したと考えられる。遺物は、段差部分第3層より土師質窓口縁部(16世紀末)が出土している。

第3区

本調査区は虎口よりやや上に位置する西側の堀に設定した。現状の通路との高低差は0.5mである。堀の幅約5.5m、深さ2.2mである。地層堆積状況は、腐植土(1、層厚0.1m)、明黄褐色土(2、層厚0.1～0.3m)、堀埋土は5層に分けることができるが、自然埋没したものとは考えられない。短い期間に一度に埋め戻したと考えられる。

第4区

本調査区は、虎口西側に設定した。地層堆積状況は、腐植土(1、層厚0.1m)、明黄褐色土(2、層厚0.2～0.3m)で、その下は明黄褐色土(4)の地山である。結果、虎口西側から堀が北側に続かないことを確認した。



和泉千石堀城（貝塚市橋本）
中西義昌 調査作図 2013.2
(調査位置を加筆)

図 11 2013-09 区、2014-09 区

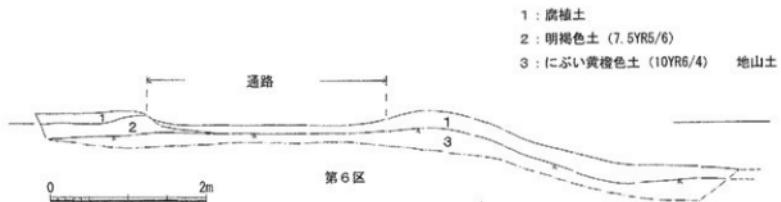
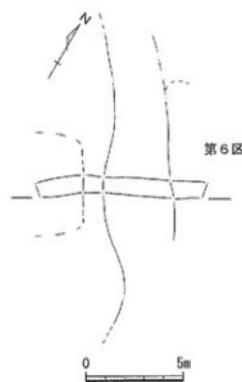
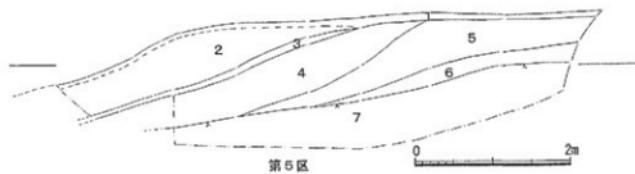
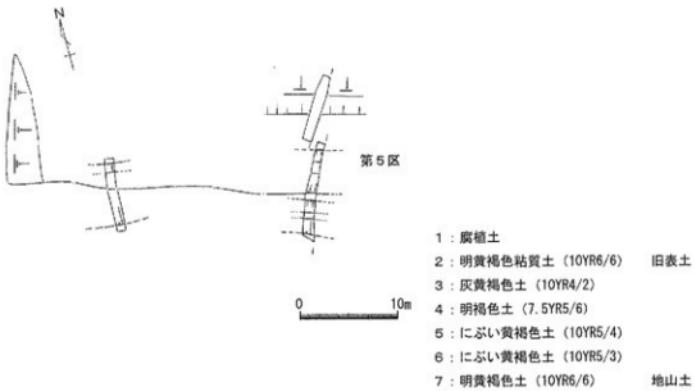
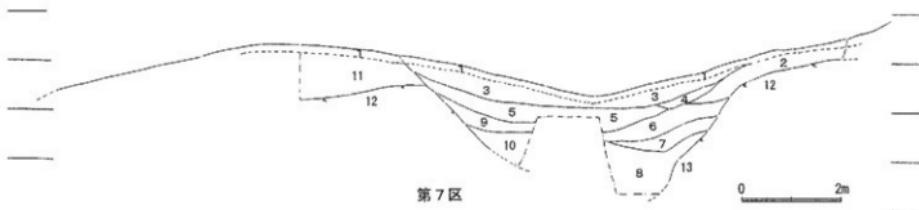
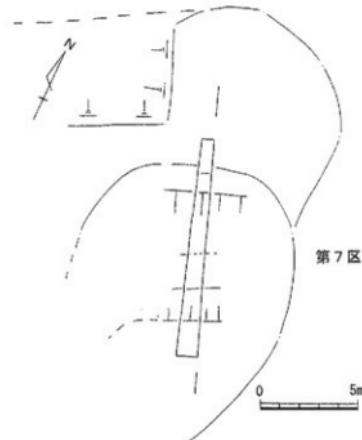
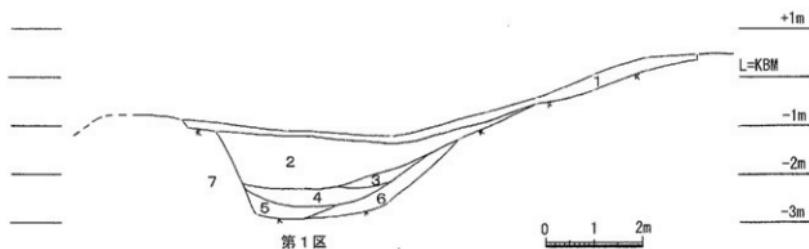
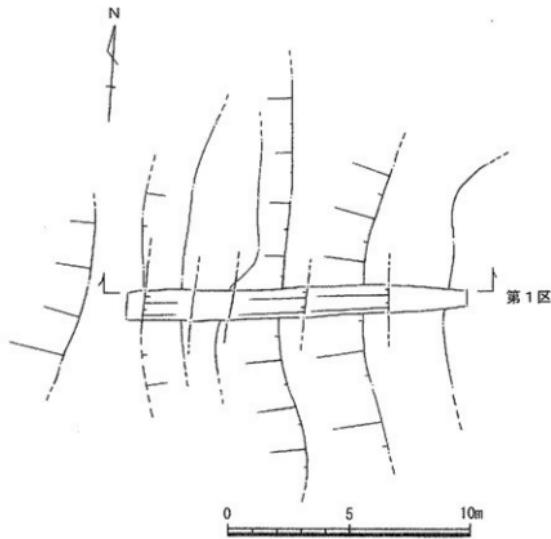


図 12 2013-09 区



- 1 : 廃植土
- 2 : 明褐色土 (7.5YR5/6)、にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 混じり
- 3 : にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
- 4 : 黄褐色土 (10YR5/8)
- 5 : 明黄褐色土 (10YR6/6)
- 6 : にぶい黄橙 (10YR6/4)
- 7 : 明黄褐色土 (10YR6/6)
- 8 : 黄褐色土 (10YR5/8)
- 9 : 明黄褐色土 (10YR6/6)、にぶい黄橙色土 (13) ブロック混じり
- 10 : 黄褐色土 (10YR5/8)、にぶい黄橙色土 (13) ブロック混じり
- 11 : 明黄褐色粘土混じり土 (10YR6/6)
- 12 : 明褐色土 (7.5YR5/6) 地山土
- 13 : にぶい黄橙色土 (10YR7/4) 地山土

図 13 2013-09 区



第1区

- 1 : 腐植土
 - 2 : 橙色土 (7.5YR6/6)
 - 3 : 明褐色土 (7.5YR5/6)
 - 4 : 橙色土 (7.5YR6/6) 稲を含む
 - 5 : 橙色土 (7.5YR6/6)
 - 6 : 明黄褐色土 (10YR6/8)
 - 7 : 橙色裸混土 (7.5YR6/6)
- 地山土

図 14 2014-09 区

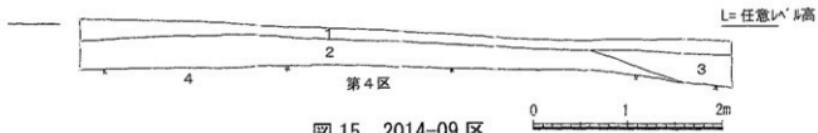
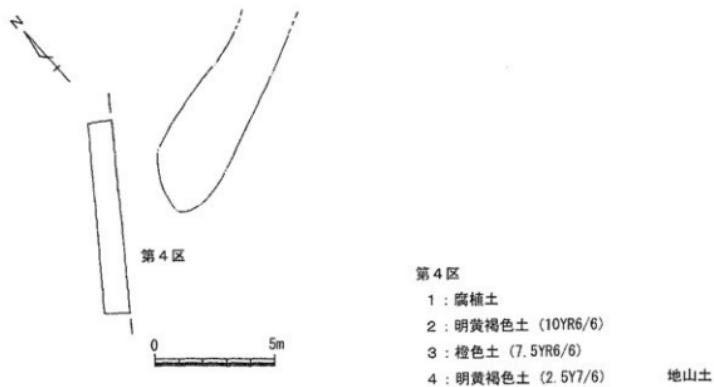
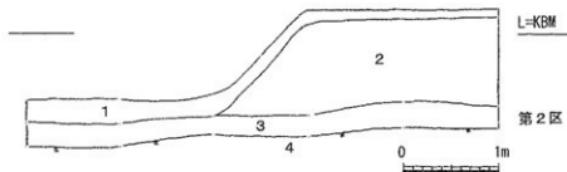
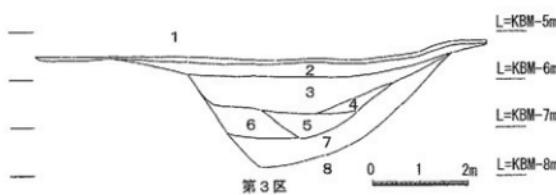
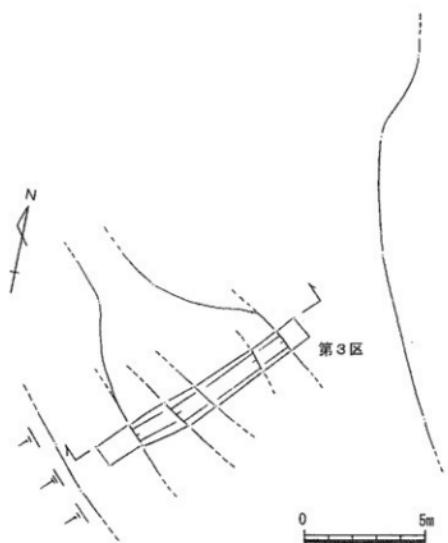


図 15 2014-09 区



第3区

- 1 : 底植土
- 2 : 明黄褐色土 (10YR6/6)
- 3 : 橙色土 (7.5YR6/6)
- 4 : 橙色土 (7.5YR6/6)、明黄褐色土 (10YR6/8) 混じり土
- 5 : 明黄褐色土 (10YR6/8)、橙色土 (7.5YR6/6) 混じり土
- 6 : 橙色土 (7.5YR6/6)
- 7 : 明黄褐色粘質土 (10YR6/8)
- 8 : 橙色土 (7.5YR6/6) 地山土

図 16 2014-09 区

8. 遺跡範囲外 2014-02 区の調査

本試掘調査は、小瀬 305-1、305-4において実施した。調査は、開発道路部分に調査区(5.4 m²)を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（1、層厚 0.2 m）、耕作土・黄褐色砂混じり土（2、層厚 0.2 ~ 0.35 m）、黄褐色土（3、層厚 0.05 ~ 0.2 m）で、その下は、褐色砂（4）の地山である。地山上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

2014-05 区の調査

本試掘調査は、沢 583-1、583-5、583-6、584、593-1、593-3、浦田 63-1、水路敷において実施した。調査は、開発道路部分に調査区（第1区、第2区、合計 9.65 m²）を設定して実施した。以下、概要を示す。

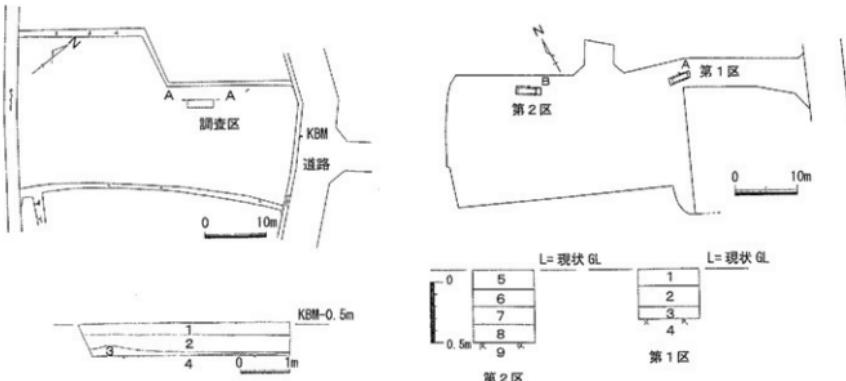
第1区

本調査区の地層堆積状況は、上層より表土（1、層厚 0.14 m）、旧耕作土（2、層厚 0.16 m）、黄褐色土（3、層厚 0.1 m）でその下は、にぶい黄色粘土（4）の地山である。地層堆積状況から判断して地層が削り取られており、遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

第2区

本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土（5、層厚 0.16 m）、黄褐色土（6、層厚 0.14 m）、黄褐色土（7、層厚 0.15 m）、灰オリーブ色砂質土（8、層厚 0.15 m）でその下は、灰黄色粘土（9）の地山である。地層堆積状況から判断して地層が削り取られており、遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

調査の結果、地層が削り取られており遺構、遺物包含層は確認できなかった。



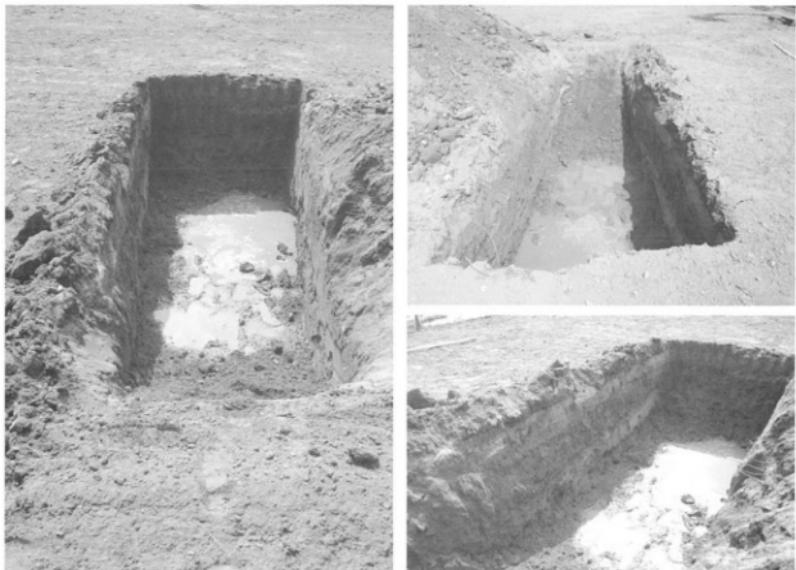
- 1 : 耕作土
- 2 : 耕作土・黄褐色砂混じり土 (2.5Y5/4)
- 3 : 黄褐色土 (2.5Y5/3)
- 4 : 褐色砂 (10YR4/4) 地山 (自然層)

- 1 : 表土
- 2 : 旧耕作土
- 3 : 黄褐色土 (2.5Y5/4)
- 4 : にぶい黄色粘土 (2.5Y6/4) 地山
- 5 : 耕作土
- 6 : 黄褐色土 (2.5Y5/3)
- 7 : 黄褐色土 (2.5Y5/4)
- 8 : 灰オリーブ色砂質土 (5Y4/2)
- 9 : 灰黄色粘土 (2.5Y6/2) 地山

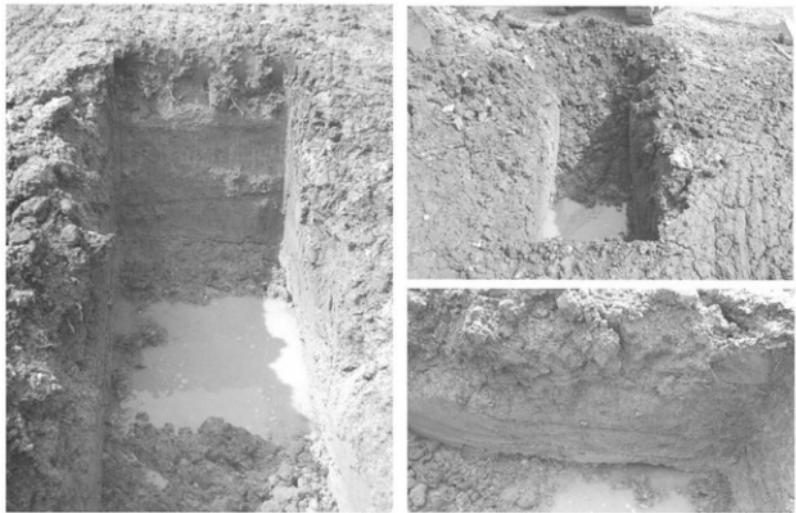
図 17 2014-02 区

図 18 2014-05 区

図 版



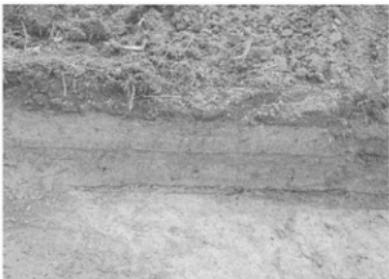
堀遺跡（2014 - 03 区） 第1区



堀遺跡（2014 - 03 区） 第2区



堤三宅遺跡（2014 - 01 区） 第 1 区



堤三宅遺跡（2014 - 01 区） 第 2 区

図版
3



堤三宅遺跡（2014 - 01 区） 第3区



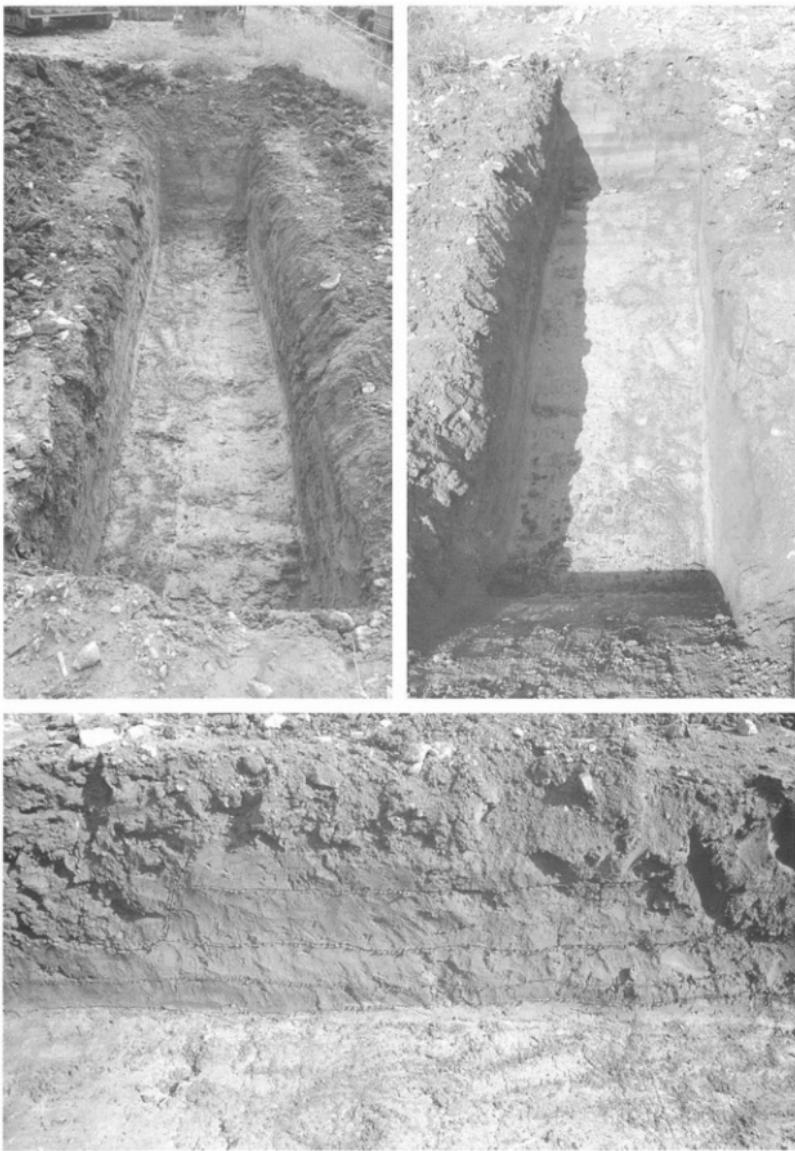
堤三宅遺跡（2014 - 01 区） 第4区



半田北遺跡（2014 - 04 区） 第1区



半田北遺跡（2014 - 04 区） 第2区



沢城跡（2014 - 06 区）

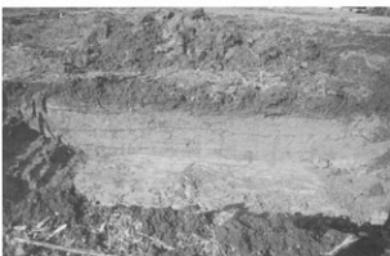


明楽寺跡（2014-07 区） 第 1 区



明楽寺跡（2014-07 区） 第 2 区

図版 7



明楽寺跡（2014-07 区） 第3区



明楽寺跡（2014-07 区） 第4区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08区）第1区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08区）第2区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08区）第3区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08区）第4区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08 区） 第5区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08 区） 第6区



新井・鳥羽北遺跡（2014-08区） 第7区

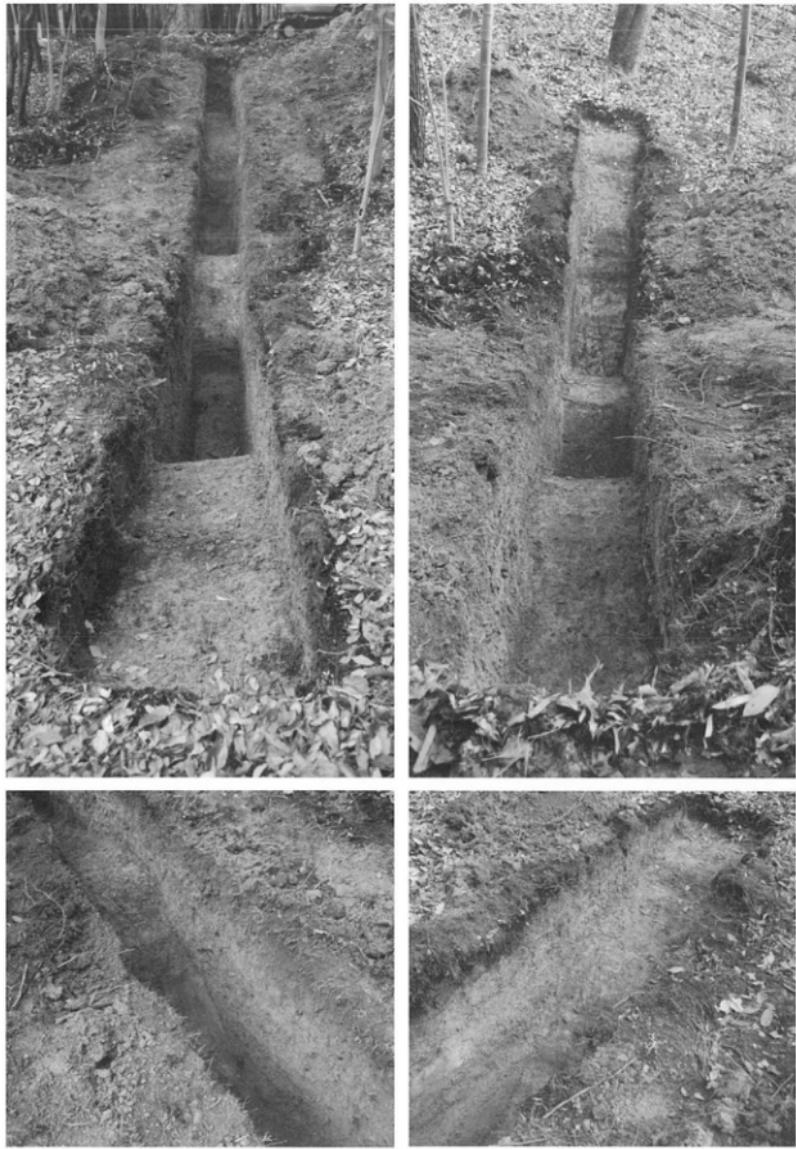


千石堀城跡（2013 - 09 区） 第5区

図版
13



千石堀城跡（2013 - 09 区） 第6区



千石堀城跡（2013 - 09 区） 第7区

図版
15

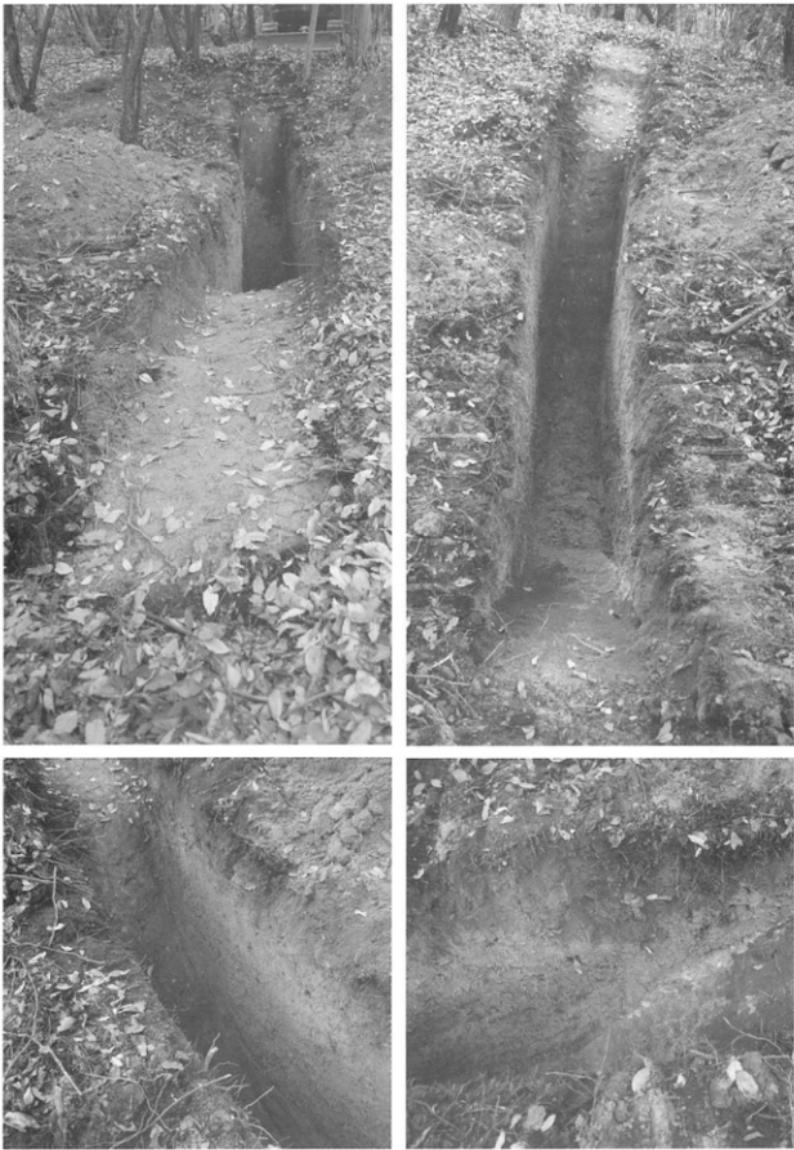


千石堀城跡（2014 - 09 区） 第1区



千石堀城跡（2014 - 09 区） 第2区

図版
17



千石堀城跡（2014 - 09 区） 第3区



千石堀城跡（2014 - 09 区） 第4区

図版
19



遺跡範囲外 (2014 - 02 区)



遺跡範囲外 (2014 - 05 区) 第 1 区

遺跡範囲外 (2014 - 05 区) 第 2 区

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第83集
貝塚市遺跡群発掘調査概要 37

発行日 平成27年(2015)3月31日

讃・號 貝塚市教育委員会

大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

印 刷 摂河泉文庫